

## 2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

### 1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	さとう けんじ					
教員氏名	佐藤 健司		職 位	教授	学 位	修士
アルファベット表記	Kenji SATO					
専門分野		経営学、経営管理論、人的資源管理論				
研究課題	テーマ	「人間関係マネジメントの分析とディーセント・ワークの研究を踏まえた安心・安全な働き方の研究」				
	概要	人間関係マネジメントを、時間軸、空間軸、本質軸を踏まえて行う分析と働きがいのある人間らしい仕事について日本企業を中心に分析を行う。				
本年度 研究業績	研究費	総額： 18万 円 内訳： 個人研究費 18万 円 / 科学研究費 円 そ の 他 円				
	研究テーマ	「働きがいのある職場」の研究と「ディーセント・ワークの実現」についての研究				
	経過と到達点	本年度は、特に2つの研究を行った。第1は、筆者のライフワークでもある働きがいのある職場について、その第一人者であるレベリング（Levering, R）著の <i>A Great Place to Work</i> の翻訳を行った。第2は、特に、日本におけるディーセント・ワークの現状と課題を分析し、今後の方向性についての考察を行った。				

### (1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文	「職場における女性活躍推進の現状と課題」	2023年2月24日発行予定	単著	『京都経済短期大学論集』第30巻第1号	日本は女性が活躍する機会が不十分な状況にある。そこで、本稿では、こうした現状を確認し、その要因を分析したうえで、法整備や企業の取り組みについて確認していきたい。

	「lon1 ミーティングの現状と課題」	2023年2月24日 発行予定	単著	『京都経済短期大学論集』第30巻第1号	本稿では、現在、とりわけ内外のリーディング・カンパニーで導入されている lon1 ミーティングに注目し、その現状と課題について分析を行った。
⑥	紀要研究ノート、専門誌記事等				
⑦	学会での口頭発表、討論者(ディスカッサント)	(仮題)「職場のダイバーシティについて」 2023年3月9日 (報告予定)	単独	京都経済短期大学経営情報学会	職場のダイバーシティの中で、女性労働の活躍推進について考察する(内容の変更の可能性あり)。

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要	
⑧	共著書・共訳書	佐藤健司「ディーセント・ワークの実現を目指してー持続可能性を視野に入れてー」京都経済短期大学経営情報学会編『持続可能な社会に向けて』	2023年2月(予定)	晃洋書房	本稿では、ディーセント・ワークとSDGsの概要に触れたうえで、日本におけるディーセント・ワークの現状を長時間労働の事例を用いて確認する。それを踏まえて、持続可能な社会を実現するためにどのような取り組みが考えられるのかということについて確認した。
	共著書・共訳書	佐藤健司「第7章 エルトン・メイヨの経営思想」・「第9章 トム・ピーターズの経営思想」ロバート・レベリング著『働きがいのある会社とは何かー「働きがい理論」の発見ー』	2022年10月	晃洋書房	働きがいのある職場を考察するにあたって、これまでの経営思想の成果と課題について整理している。訳者は、第7章のエルトン・メイヨと第9章のトム・ピーターズを担当し、働きがいのある職場を考察するにあたって、とりわけ何が欠けているのかということについて詳細な説明を行っている章を翻訳した。
⑨	単著書・単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩	共同研究 (研究代表)			
⑪	単独研究			

⑫共同研究 (分担研究)				
⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請	申請中			

## 2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	経営学総論・人的資源管理論・経営英 書講読Ⅱ	経営管理論・マネジメント史・経営講 読Ⅰ
	演習	基礎ゼミ・ゼミⅡ	ゼミⅠ・ゼミⅢ
	実習		
	教育内容・方法 の工夫	<p>◆ 講義科目 講義科目では、学生が、対象科目についての関心をいかに継続させるかということを中心に、それぞれの科目では、できる限り具体例を盛り込み、関心をもってもらうということと、講義内でアクティブ・ラーニングを積極的に活用した。各科目の項目について、「自分だったらどのように解決するか」といったことについて考えてもらっている。その結果、学生も毎回大変熱心に取り組んでくれた。また、経営管理論では、実際の会社経営者にご登壇いただき、普段の講義で伝えている内容の延長上の位置づけとして講義を行っていただき、学生からも「経営現場の話がよくわかった」といったコメントが寄せられた。</p> <p>◆ 演習科目 演習科目で重点項目として位置付けているのは、学んだことを実際に活用し、実践的な解決策を提示することにある。学生は、各課題に熱心に取り組んでくれた結果、ゼミⅡ・Ⅲでは、オリジナリティにあふれた卒論を完成してくれた。また、ゼミⅠでは、マネジメントの基礎をテキストで学んだうえで、アクティブ・ラーニングに取り組んでくれた。また、今年度は、ゼミⅠで企業の社長をお招きし、社長に対して具体的な提案を行ったことは大きな成果になった。基礎ゼミも大学で学ぶということはどのようなことを意識して学ぶ必要があるのかということ、実践的な多様な取り組みを通じて身につけてもらった。</p>	
	実習科目	◆ その他(教科書・教材等の作成を含む。)	

## (1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## (1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

## (2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	労務理論学会理事（第11期理事）

## (3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	

## 4. 特記事項（本年度のみ）

--